

インビテーション

『東洋文化』100号を一緒にお祝いしませんか。

閉じた本をイメージしながら両手を合わせ、本を開くように開いてみてください。自然に呼吸しながら、これまで発行されてきた『東洋文化』1冊1冊を心に描いてください。あなたが感じたことをゆっくり味わってください。

100号という記念すべき特集をまかされたとき、わたしは99冊の宝物を受けとり、つぎに橋渡する仕事をできるだけ丁寧に、仲間とともに、取り組みたいと祈るような気持ちでした。そうして生まれたのが、この作品です。

考えること。
生きること。
交わること。

読み方は自由です。わたしのおすすめは、それぞれの執筆者の傍らに腰をかけ、よく耳を傾けながら、ああ、うんうん、おっ、そう来るか、自分ならこう行くかな、どう思う、と対話をしながら、新しい何かをもに見つけることです。

そのような冒険に、ご招待いたします。

2019年11月8日

ひとりのエスノグラファーより